

# 応急処置 | 止血

## 止血

### 【毛細血管性出血】

#### にじみ出るような出血

毛細血管からの出血。傷口全体からじわじわと赤くにじみ出る状態。出血による危険はないので、ほとんどの場合、そのまま放置していても止まる。

危険度：小

### 【静脈性出血】

#### わき出るような出血

静脈からの出血。血液の色は黒く、じわっと出血。少し太い静脈の場合は溢れるように出血し、手当てが遅れると短時間で出血性ショックに陥る恐れがある。

危険度：中

●処置方法：直接圧迫止血法

### 【動脈性出血】

#### 噴き出るような出血

動脈からの出血。血液の色は鮮紅色で、脈を打つように勢いよく出血する。動脈からの出血は、瞬間的に多量の血液を失い出血死の恐れがあるため、医療機関での緊急処置が必要。

危険度：大

●処置方法：間接圧迫止血法  
直接圧迫止血法  
やむをえず止血帯法

### 【感染防止のために】

手当ての際、血液に直接触れて感染しないよう、ビニール手袋やゴム手袋、ビニールの買い物袋などを使用する。そして手当て後は、すみやかに石鹸等を用いて流水により手を洗う。



## 出血部分を直接圧迫して止血

### 【直接圧迫止血法】

#### 止血法の基本。

まずはこの方法で止血を試みる。

傷口に直接ガーゼやタオルを当て、その上から手で押さえる、もしくは包帯等で圧迫する方法。布に血がにじんできた場合は、その上から新しい布をのせる。その際、傷口を心臓より高い位置に上げておく。止血するのに最低5~10分位が必要。途中で圧迫をゆるめると出血量が増加するので、完全に止血するまで解除しない。



#### 手で止血する

片手で圧迫しても止血しない時は、両手で体重を乗せながら圧迫止血する。



#### 包帯等で止血する

包帯等をきつく締め過ぎると神経まで圧迫して血液循環が悪くなるので注意。

## 動脈(止血点)を圧迫して止血

### 【間接圧迫止血法】

直接圧迫止血の準備が整うまでの間に行う。

頭部・手足の出血の場合に行う方法。出血部位よりも心臓に近い動脈を指で圧迫。長時間圧迫は疲れてきて確実な止血が難しくなるので一時的な措置とし、その後必ず直接圧迫での止血を行う。



#### 腕の出血

わきの下の中央を親指で圧迫する。



#### 腕の出血

ひじの内側の中央を親指で圧迫する。



#### 足の出血

股のつけ根のところに体重をかけて圧迫する。

### 【止血帯法】

直接圧迫・間接圧迫のいずれでも止まらない場合や、搬送する際にやむをえず行う。

出血部位よりも心臓に近い動脈を幅の広い布(タオルやスカーフ)など止血帯で固く結びます。これでも止血できないときは、止血帯の間に棒やスパナなどを差し込みさらに圧迫。ただし長時間行うと末端が壊死してしまうので、早急に医療機関での処置が必要。30分に1回は止血帯をゆるめ出血がはじまらない程度に血流を戻す。



#### ① 止血帯を巻く

傷口に当て布をおき、出血部位より心臓に近い部分を止血帯でゆっくり締める。



#### ② 棒を差し込む

当て布部分と結び目部分の間に棒を差し込む。



#### ③ 棒を回し止血する

棒を回し、止血するまで止血帯を十分に締める。出血が止まったら、ゆるまないよう棒の端を別の布で固定する。